

2010-2011 年度 国際ロータリー第 2790 地区

第 7 分区

ロータリー情報研究会報告書



日時 2010 年 9 月 20 日 (日)

会場 ヒューマンプラザ 黄 鶴

主催 旭ロータリークラブ

プログラム

- 14 : 00 点 鐘
ソング 君が代・奉仕の理想
地区委員紹介
- 14 : 05 ガバナー補佐開催趣旨挨拶 代理 北川 幸 靖
- 14 : 10 ホストクラブ会長挨拶 北川 幸 靖
- 14 : 15 地区職業奉仕委員長挨拶 土屋 亮 平 様 (パストガバナー・松戸 RC)
- 14 : 20 地区委員卓話「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」
地区職業奉仕委員会クラブ研修委員長 海 寶 勘 一 様 (千葉西 RC)
- 14 : 40 休 憩
- 14 : 45 テーブル毎にグループ討議意見交換
- 15 : 45 テーブル毎の意見発表
- 16 : 15 ガバナー補佐総評挨拶 代理 土屋 亮 平 様 (パストガバナー・松戸 RC)
- 16 : 20 点 鐘

来訪地区委員

- | | |
|-----------|----------------------|
| 土屋 亮 平 様 | 地区職業奉仕委員長 (松戸 RC) |
| 海 寶 勘 一 様 | 地区クラブ研修委員長 (千葉西 RC) |
| 安 蒜 俊 雄 様 | 地区クラブ研修委員 (松戸東 RC) |
| 山 下 清 俊 様 | 地区クラブ研修委員 (市川東 RC) |
| 片 岡 正 勝 様 | 地区職業奉仕研修委員 (八日市場 RC) |

グループ別参加者名簿

☆印はリーダー (銚子) 銚子 RC (銚東) 銚子東 RC (八日) 八日市場 RC (旭) 旭 RC 敬称略

A グループ	B グループ	C グループ	D グループ
☆大岩 將道 (銚子)	☆黒田 幸一 (銚東)	☆大塚 栄一 (八日)	☆岡田 英一 (旭)
金島 弘 (銚子)	石上 明宏 (銚東)	鵜澤 仁智 (八日)	新行内誠玄 (旭)
宮内 清次 (銚子)	高橋 宏資 (銚子)	宮内 龍雄 (銚子)	神崎 薫 (旭)
松本 恭一 (銚子)	仲田 博史 (銚子)	高木 浩一 (銚子)	伊藤 禧雄 (旭)
平野 恭男 (銚東)	上総 泰茂 (銚子)	内田 修心 (銚子)	信太 秀紀 (銚子)
宮内 博 (銚東)	植田 正義 (銚子)	杉浦 武 (銚東)	藤崎 真気 (銚子)
川口 茂 (八日)	宮内 柄一 (八日)	狩野 勉 (銚東)	石毛 充 (銚子)
宇野佐太夫 (八日)	小川不二夫 (八日)	中西 廣 (銚東)	長谷川 弘 (銚東)
角田 将規 (八日)	宮野 作一 (旭)	飯島 盛行 (旭)	木村 貞夫 (銚東)
高橋 満 (旭)	加瀬 忠男 (旭)	椎名 正良 (旭)	澤田 武男 (銚東)
加瀬 善一 (旭)	飯嶋六兵衛 (旭)	太田 賢一 (旭)	鵜之沢康雄 (八日)
伊藤 満晴 (旭)	座古 裕久 (旭)	井田 孝 (旭)	江波戸達郎 (八日)
水野登美子 (旭)			

片岡 正勝 (地区直行奉仕研修委員 八日市場 RC)

北川 幸靖 (旭 RC 会長)

篠崎 一海 (旭 RC 幹事)

参加者数 : 銚子 RC 14名 銚子東 RC 10名 八日市場 RC 10名 旭 RC 18名

開催趣旨挨拶及びホストクラブ会長挨拶

旭ロータリークラブ

会長 北川 幸 靖

ロータリー情報研究会の開催趣旨説明とご挨拶をさせていただきます。

今年度、織田ガバナーの理念であります「ロータリーの綱領」を基本として、職業に誇りと価値を求めて、高潔な職業人の集まりであるべき例会の重要性を認識するために、分区ごとにロータリー情報研究会を開催してくださいとお話しでした。

ロータリー情報研究会では、クラブ例会が和気あいあいと学び愛、感化し愛、敬愛できる場であることを改めて認識できるように、地区委員卓話を通して、グループ討議を通して、職業人として、毎例会出席する意義と重要性を熱く語り合いできることを、また織田ガバナー年度の最枢要事業である職業奉仕活動の理念を啓蒙することから、クラブ運営の要となるような委員会活動に結び付けられるように、高潔な職業人として、職業奉仕理念の高揚が図れることを期待されています。

そして、米山梅吉翁の言葉にあります「毎週のクラブ例会は、人生最高の修練の場である」ことを目指して、個々の会員が優越感や期待感をもって切磋琢磨し、生き活きと例会に出席できるように、委員会活動と卓話を通して伝えてゆきたいとのことです。

本日は、土屋パストガバナーはじめ、地区委員の皆様、第7分区ロータリー情報研究会に遠路お越しいただき、誠にありがとうございました。特に、クラブ研修委員長の海寶様には事前打ち合わせからいろいろご指導頂きまして、本当にありがとうございました。

小関ガバナー補佐、病気療養中のため、本日出席することができません。

旭クラブといたしましては、第7分区ロータリー情報研究会のために準備を進めてまいりましたが、不手際の点多々あるかもしれません。「ロータリーの寛容の心」でお許しをいただき、年に数度のロータリーの勉強の場ですので、ご出席の皆様にとって有意義なロータリー情報研究会にさせていただきたいと思っております。

第7分区ロータリー情報研究会開催に当たり

第2790地区職業奉仕委員会

委員長 土屋 亮平

国際ロータリー第2790地区第7分区ロータリー情報研究会の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

本年度のロータリー情報研究会は、小関邦夫ガバナー補佐様のご指導の下、北川幸靖旭ロータリークラブ会長様を始めとする第7分区の皆様のご協力を戴き、情報研究会がこの様に立派に、準備して戴きましたことに対し、衷心より感謝申し上げます。

さて、本年度の織田ガバナーは5大奉仕部門の内、職業奉仕が最も理論的であり、倫理的であると結論づけられました。その様な観点から、今後益々増えることが予想されるであろうR Iからの提示、並びに諸々の案件に就きまして、各クラブがそれらに就いて、独自に、その是々非々の判断を下す必要性が想定されます。それ等に対応すべく、各クラブの職業奉仕委員会の中に『クラブ研修委員会』を設置することを要望され、常日頃から研鑽を積んで戴きたいと、断つての要請でございます。

特に、織田ガバナーは今年度・各分区毎に開催されますロータリー情報研究会を地区の職業奉仕委員会が担当するように指示され、テーマも「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」と示され、一『出席なくしてロータリーなし』と言いますが一出席の重要性を再認識して、真のロータリーライフを構築して戴きたいとの思いと拝察致します。

出席と申しますと、これはクラブ奉仕の分野ではないのか？

今更そんな当たり前のことを議論するのか？

等のご意見も聞きますが、ロータリークラブの定例会は些か異にします。例会と言っても一連のセレモニー、食事、卓話、それ以外にロータリーの例会にはもっと深遠なものが、存在しなければなりません。それを本日掴み採って戴きましょう。それこそが、職業奉仕を理解する上での大前提であるからであります。

第7分区のロータリアンの皆様、今日の研究会は皆様の研究会であります。

敢えて言わせて頂けば、地区の職業委員の任務は、職業奉仕への道案内人に過ぎません。どうぞ活発なるご意見を戴き、楽しく、実り多い研究会になりますことを期待致します。

混迷する社会で生き残る道は、唯一つ、職業奉仕の実践『大道無難』に尽きます。

「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」

10-11 地区職業奉仕委員会

クラブ研修委員長 海寶勘一(千葉西 RC)

地区職業奉仕委員会に属します、クラブ研修委員会の海寶勘一と申します、ホーム・クラブは千葉西ロータリー・クラブです。

今日は皆様方との友愛交流が深まることを期待して、緊張と不安を交錯させたまま、楽しみに訪問をさせて頂きました。

今年度織田ガバナーからは、職業奉仕の理解をより深めるために、14分区ごとにロータリー情報研究会を開催して、会員の皆様と地区委員が共に考え、語り合う中で、ロータリーの綱領を理解し、ロータリーの理念を認識し、より一層ロータリアンとしてのスタイルを磨くよう提議がされました。

第7分区に於きましては、小関ガバナー補佐さんに意義あるご指導を賜り、北川会長さん初めとする旭ロータリー・クラブの皆さんには、素晴らしい情報研究会の設営をすべてにお願いしましたこと、心から御礼を申しあげますし、大変なご尽力を頂きましたこと誠にありがとうございます。

今日はロータリー情報研究会のテーマであります「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」を、分区の皆様と謙虚に語りあえる絶好の機縁として、この後にありますグループ討議を意義深いものにして頂きたいものと、今から楽しみにしております。

「ロータリーとは親睦と奉仕を通して自己研鑽をする場である」と認識をしますと、毎例会に出席することが基本で有益であり、大変に重要になってきますから、毎週のクラブ例会では、多くの人生学問を学べる貴重な場であることが理解されます。

私自身のことになりますが、ごく最近になって漸く理解されてきたことが、ロータリー精神は気高くあり、常に純真であり、常に多様性があり、常に思いやりと寛恕の精神をもつことであり、友愛交流をする例会の中からは、沢山の人間学を学ぶ機会があることを、如実に感じとれるようになりました。

自クラブでは、とかく奉仕活動を実践することに、重きをなしていたのですが、ロータリーの目的となっています、ロータリーの綱領を確りと理解して受けとめ、標準クラブ定款とクラブ細則に書かれております、条項を一層よく読み込むことを始めました。

日々歩んでいるロータリー道の道幅を広げて、時には右に行ってみたり左に寄ってみたりして、クラブ内や地区内は勿論ですが、他地区ロータリアンとの交流をたくさん楽しむことを心掛けたことで、地区内外で様々な感動の出会いがたくさん恵まれるようになってきました。

重ねて私自身の未熟さを露呈しますと、標準クラブ定款には第4条で綱領が謳っており、第15条では、入会時に綱領を受諾したことと、定款と細則を遵守する旨が書かれていることが、まったく認識不足でした。

基本的に、職業人として職業倫理を身につけ、考えたり学んだりする人々の集いがロータリーであることや、地区セミナー等で職業奉仕こそが、ロータリーの根幹なのだと教えられても、なかなか自分の腑の中では上手く理解することができなく、ただ悶々としていた逡巡の時期が長くありました。

漸く今になって、僅かでも理解ができるようになったことは、ある程度の経験と勉強の時間が必要であったことと、こうしたロータリー情報研究会や地区委員会セミナーに積極的に参加することや、クラブ内外の仲間と積極的に語り合い、考えあうことができたからであり、基本的な倫理観を真面目になって学ぶ大切さや重要さを、今になって謙虚に痛感しているところです。

ところで、卒啄同時という言葉がありますが、その意味は、雛鳥が卵の殻を破る誕生時に、親鳥が殻を突っついてあげる、阿吽の呼吸でされる作業があるそうです、我々ロータリアンの誰しもが、自身の意識を高める成長時期を同じくして、学びあう友や勉強会からの啓蒙の好機を上手く捉えて、真のロータリアンへ成長するために、しっかりと学びの場を持って感化しあっていきたいものです。

ここで、今年度地区職業奉仕委員長の土屋亮平さんが書かれた、「忘筌」と言う講演文章に掲載されていた、直前RI会長のジョン・ケニーさんの言葉がありますので、基本的なロータリー原則の質問に対して、非常に分かりやすく説明をされている内容をご紹介します。

- 1・「ロータリーが他の団体と異なる特徴」はどの問いかけに、ロータリーの基盤は職業奉仕です。
- 2・「ロータリアンの責務」はどの問いかけに、事業と私生活において、高い道德水準を保ち続けることです。

3・「会員増強の目標」はどの問いかけに、会員として優先すべきは資質であり、数ではありません。

4・「ロータリーとは」の問いかけに、異業種ながら志を同じくする職業人の集まりで、個々に清純でこころ温かに地域社会に奉仕の手を差し伸べることです。

と応えていて、直前 RI 会長は、ロータリーが職業奉仕を失えば、単なる社会奉仕団体に成り下がり、職業奉仕から倫理観を失えば、職業奉仕は地に落ちてしまいますとも述べておりました。

また地区研修リーダーの白鳥さんからも広報がされたことですが、ロータリーの友誌7月号や月信1の7月号では、現 RI 会長のレイ・クリンギンスミスさんが、「クラブ奉仕と職業奉仕は、どちらも人生を謳歌し、善き市民になるよう私達を導いてくれるものである、また、社会奉仕と職業奉仕を合わせるなら、地元の地域社会を住みやすく、働きやすい場所にすることができるでしょう」とも述べております。

織田ガバナーも7月号月信トップページで紹介をされ、「例会を通して自らを磨き続けること」を基本に据えて、私達はこの「地域を育み大陸をつなぐ」RI のテーマに真摯に向き合い、心をひとつにして奉仕の道を共に歩んでゆきましょうと述べております。

クラブの組織面や運営面や奉仕の手法は、時代変遷に対応していくべきですが、ロータリー理念や慈しみの心をもつことや、思い遣りや厚き友情とは、永久に変えてはならないものだと思います。

今こそ心や思いを新たにさせて、不易流行という言葉を大切に捕らえて、変えてはいけない理念は真に承継すべき不易とし、時代に合わせたクラブ運営や、奉仕活動は流行であると確りと見極めるために、会員同士がクラブ内で積極的に語りあい考えあうことが大切であることが、一層重要になってきた気がするのです。

さて、ロータリーで言う「奉仕の理想」の基本理念なのですが、他人に対する思いやりと、他人を助けあうことであることを確信でき、各会員が率先して職業を通じて「奉仕の理想」を実践するならば、社会生活における自身の事業成功と、あわせて人生の幸福に結びついていくことだと思います。

その《奉仕の理想 Ideal of Service》の意識を高めていくために、仲間をたくさん増やし、一層誠実で良心的な仕事に結びつかせ、相手の立場を尊重し感謝をすることから、どんな時にも真実かどうか、皆に公平か、行為と友情を深めるか、皆のためになるかどうかの、《四つのテスト The Four-way Test》を言行に照らしてから護り、地域社会や世界の人々とも友人になり、理解をしあうことを、健気に自己啓発していきたいものです。

1932年《4つのテスト》を考案したハーバート・テラーは、経営不振に陥ったアルミニウム食器加工会社を引き受け、《4つのテスト》を実践することで事業を再生させ、立派に繁栄を実証させた歴史的事実を知り、我々は《4つのテスト》を真摯に身につけ、その効果に肖って、是非とも自分自身の職業の尊さと、価値を高めていきたいものです。

さて、ロータリー活動の大部分を占めているのは、毎週一時間ほど開催されるクラブ例会ですが、まさにロータリーの根幹となっており、今日出席するクラブ例会ではどんな出会いがあり、どんな気づきを得られるのだろうか、うきうきした気分で期待感をもって、例会に出席できるのであれば、ロータリアンもクラブも共に活性化ができることと思います。

私自身ですが、自クラブやメイクアップ先での例会場で意識をしていることは、先ずは例会に出席できた心身の幸せを味わい、会員の皆さんからは、有益な事業を率先されている様子を伺い、その溢れる元気なパワーを一身に受け入れることを最優先にさせながら、地区内外のクラブ例会に出席して、多くの仲間と語り合うことから、新鮮な感動と大きな喜びを味わうことができています。

様々な仲間との語り合いができる例会場の感化からは、多様なエネルギーを享受することができ、自己啓発や啓蒙が素直に誇らしく思え、ロータリアンであることに感謝をするように心掛けています。

今から87年前の1923年・大正12年9月1日にあった関東大震災の時ですが、義捐金25,000ドルを贈ってくれた、日本にとってもっとも恩義ある方は、1923年国際ロータリー会長のガイ・ガンディカーさんでした。

(ロータリーの友9月号30P掲載参照)

ロータリーの職業奉仕の理念を高く謳い上げて、「ロータリー倫理訓(道德律)」を創り上げた方でもあり、著書である「ロータリー通解」はロータリーとは何かを教えるために書かれたものです。

「ロータリーの奉仕とは、良質な職業人が例会において自己研鑽を遂げ、一例会終わるごとに自分の心の世界が深く広くなり、自分の力量が大きくなっていくことを意味するのであって、実力の涵養と人格の形成が根本である。こうして自分の人格の形成のエネルギーが、やがて社会万般を潤すことになる。これがロータリーの奉仕であります」と「ロータリー通解」には書かれているそうです。

大よそ約90年前の時代ですが、すでに、ロータリーの例会を自己研鑽の場と位置づけて、自分を磨き高めることにより自分の企業は発展し、したがって従業員も取引先も顧客も共に幸せになり、社会の発展を導くこと、これこそがロータリーの普遍的な職業奉仕だと呼びかけていたのです。

私も『職業には貴賤はない』と思い、打算的な営利を目的にしながらも、相手を思い遣る優しい心を養う愛情をもっていけば、その積み重ねからは、近江商人の経営理念にあります『三方よし』、すなわち『売り手よし、買い手よし、世間よし』の達観心に繋がっていくのだと信じているところです。

さらに米山梅吉翁の「ロータリーの例会は人生の道場である」はあまりにも有名な言葉ですが、「学びて然る後に足らざるを知る」という教えのように、足らざるところは無限にあるわけですし、物の考え方・立ち居振る舞い・言葉づかい・生きる姿勢・あふれる情熱・持てる能力・知識の深さ・生きた情報等々、人間として、また経営者として、仲間の会員から身につけるべきことはたくさんあるように思います。

例会の目的ですが、職業上の発想の交換を通じて、相互に分かち合いの精神による経営事業の永続性を学びあい、友情を深めあい、自己心の改善を計ることにあり、その結果として奉仕の心、即ち、社会に役立つ価値を提供することや、思い遣りの心を育むことになるのだと思っています。

クラブ例会は単なる食事会ではなく、親睦の場であることも忘れてはいけませんし、ロータリーの目指す親睦とは、フェロー・シップである会員同士の揺るぎない、信頼関係を築き上げることにあります。

先ほど紹介した、ガイ・ガンディカーさんの言葉を思い返してみますと、クラブの例会が自らの職業や奉仕へのエネルギーを培い、自らの謙虚さと向上心を見つめ直し、さらに信頼関係を構築させる最高の例会運営を目指して、会員一人一人が積極的に考えることを心掛けすべきでしょう。

毎例会の中では、強い個性をもった会員同士が、お互いに胸襟を開いて語り合い、毎朝、毎晩する歯磨きと同じように、お互いが職業人としての信頼と信用を磨き、正直で誠実な心磨きができることを率先できるようになりたいものです。

漸くこの年齢になってから、謙虚で素直な気持ちになることができましたし、感謝をもって「奉仕に徹するものに最大の利益あり」の倫理を信じることができ、率先してロータリーの一番大切な真理を学び、真の仲間づくりに専念することが、最も肝心要であることを確信できるようになりました。

ロータリーとは、単なるボランティア団体ではなく、その基本となる考えは、ロータリー独特の職業奉仕という理念があり、ロータリーとは職業奉仕理念の研鑽と実践を目的とした団体であることを、今まさに認識を深めています。

それは、定款第4条に書かれているロータリーの綱領の主文に、「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成する」と書かれていますし、副文第2項には「事業および専門職務の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識を深めることとあります。

ロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること」とも書かれていますので、ロータリーは職業奉仕を目的とした仲間の集団であることが改めて理解できています。

ロータリーには2つのモットー(標語)がありますが、第1モットーは、フランク・コリンズが説いた「超我の奉仕」“Service Above Self”。そして、第2モットーが、アーサー・シェルドンの言葉で知られる「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」“One Profits Most Who Serves Best”です。

日本のロータリーの創始者である米山梅吉翁は、第1モットーの「超我の奉仕」は、「サービス第一、自己第二」と訳し、第2モットーも、「最善のサービスをすれば、結果として最大の利益が得られる」と訳されていて、非常にわかりやすく善く理解することができます。

私のなかでのロータリーは、正邪善悪を弁えて「人は如何に生きるべきかを考え学ぶ処」と理解をして、卒業のない人生学校の学び舎となっているのが、毎週のクラブ例会だと信じています。

ロータリーの最大の特徴は職業奉仕が基本になっていることを認識し、職業とは自分が生活するために働いてたくさんの利得を求めるとあわせて、人のためや世の為に奉仕をする手段として、職業奉仕の役割が最も重要であり、事業に関係する社員や取引先、諸々の方に還元することや、ロータリアン自身も受益者として、恩恵を受けることの公平な真実さに、深い感銘を受けました。

まさしく人生哲学そのものですが、高潔で良質な職業人であるロータリアンが、自分の心の中で利己と利他との矛盾と葛藤をしながら考え、矛盾を克服しようとする強い心構えを真摯にもつことこそが、「超我 Above Self」と対峙するエネルギーとパワーになりえるのではないのでしょうか。

さらには、自己を高めて他人に奉仕をすること、すなわち、人を思いやり弱者の立場にいらっしやる方に心配りや手をさしのべて、他人に尽くす献身と誠実に行動することが、第1モットーになっている「超我の奉仕 Service Above Self」そのものであると思うのです。

第2モットーである「最もよく奉仕をするもの、もっとも多く報いられる One profit most who Serves Best」という実践理論の原理は、多くのロータリアンが共鳴され、心の指針として学び、日々職業奉仕に励む勇気を得ることができていることでしょう。

ロータリーの素晴らしさは、「ロータリーの綱領」の副文第1に書かれているように、多くの知り合いを広める事にありますし、クラブは勿論ですが地区内や他地区とのロータリアンとの友情と奉仕の交流こそ、ロータリーの感動や醍醐味を、一層深く味あえるものと思っています。

私の体験上なのですが、地区を越えて交流を広め深めることは、生涯を通じて利害を越えた、人生の師や真の友達を得る幅ができましたし、ロータリーの感動をたくさん享受できているところでもあります。

如何に魅力あるロータリーとは、楽しい例会であり、為になる例会であり、思い遣りと語り合い考えあえながら運営されることが、例会の理想になるとしています。

私たちは今こそ毎週の例会場で、自発的に果敢な語り合いをして、真のロータリー、真の職業奉仕とは何であるかを考えあつて、横柄さを捨て去りお互いが寛恕の心をもって、人格成長への学び愛をしていきたいものです。

何度も繰り返してしましますが、「ロータリーとは親睦と奉仕を通して自分を磨くこと」であり、「親睦とはロータリアン同士が、ゆるぎない信頼関係を作り上げること」であり「奉仕とは素直に人への思い遣りと気遣いや心配りをする事」であると受け止めて、例会では寛容の心を学びとっていききたいものです。

ここで改めて《クラブ職業奉仕委員会の任務》を考えてみますと、個々の会員に対して自己研鑽を進言したり、ロータリーの勉強会を企画して、職業倫理の誠実さを貫くことであり、自分の職業繁栄に繋がる思いを、会員同志が身を以て体験し、発表できるように奨励すべきことだと思います。

あわせて、現職のロータリアンはより一層高潔な職業人を目指して頂き、現役を退かれたロータリアンは現職の方々を、一層育成鼓舞することに自信と矜持をもって頂き、クラブも会社も共に有益な活性ができますように、改めて克己心を養いできるようにするのも、クラブ職業奉仕委員会の役目だと思います。

『ロータリアンよ一流の職業人たれ』と言う、凛々しい言葉が耳に聞えるようですし、皆様と一緒に、一流の職業人を目指して、良きことを為そうとするまえに良き人間であるように、一人一人が持つロータリーの道を、幅広く有益に歩み楽しみたいものです。

国際協議会では、会場の入口には決まって、「入りて学び、出でて奉仕せよ Enter to learn Go forth to serve」と言う標語看板が掲げられているそうです。

この標語からは、ロータリーの例会や全ての集会に参加するときには、ロータリアンとしての誠実な心を磨くという目的意識を持って参加し、例会や集会を終えて職場や社会に戻れば、磨いた《奉仕の心》を実践に移さなければならないことを、端的に私達に教えてくれているようです。

ロータリー活動のすべては自己啓発なのですから、率先する自己研鑽の考え方が尊重されるからこそ、最もよく奉仕をする者最も多く報いられることが、普遍的に理解できるのだと思います。

会員が、付ける権利をもっているロータリー・バッジも、高潔な職業人として、信用し信頼できる者が付けることを許された証であることを良く理解して、誇れる職業人の襟章として心得たいものです。

これからも、「私たちは何故週に一度ロータリーに集うのか」を心において、ロータリアン一人ひとりが、率先してクラブでの研修リーダーの役目を心掛け、スタイルを磨き、勇敢に意識改革をして頂けるように、第7分区内会員皆様の有意義なご活躍と、稔りある成果をご期待させていただきます。

最後に、土屋亮平地区職業奉仕委員長さんから教えて頂いた、私が大好きな詩「人が生きるということ」の一部文を御紹介させていただき、私の拙い卓話を終わりとさせていただきます。

人が生きるということは誰かに借りをつくること　そしてその借りを返してゆくこと　誰かにして貰ったように誰かにしてあげること　人が生きるということは誰かと手を繋ぐこと　そしてその手の温もりを忘れないでゆくこと　巡りあい　愛しあい　そして別れたのち悔やまぬよう　今日明日を生きていこう　人は一人で生きてゆけない　人は一人で歩んでゆけない。

文責:地区クラブ研修委員長 海寶勘一(千葉西 RC)

2010-09-20

テーブル毎の意見発表

Aグループ

リーダー 大岩 將道 (銚子)
金島 弘 (銚子) 宮内 清次 (銚子) 松本 恭一 (銚子)
平野 恭男 (銚子東) 宮内 博 (銚子東) 川口 茂 (八日市場)
宇野佐太夫 (八日市場) 角田 将規 (八日市場) 高橋 満 (旭)
加瀬 善一 (旭) 伊藤 満晴 (旭) 清水登美子 (旭)

討論内容

A 現状の認識

- ① 職業奉仕の視点で毎週の例会を見たときに、週一度の例会で集うことが、職業奉仕に役立っていますか？など。

B 例会運営

- ② 私たちは何故週一回ロータリーに集うのか？ など。

グループ毎による発表内容

- ① の質問に対して、初めに各会員の意見では

役に立っている 5名 ・ 役に立っていない 8名
各会員の意見を聞いてからは
役に立っている 11名 ・ 役に立っていない 2名

<役に立っていると答えた人の意見・現状認識>

- ☆ ゴルフ場へ土地を売却するかについて、RC 会員の銀行支店長のアドバイスによりチャンス逃さず売却できました。一業種一名色々な話ができる。
- ☆ 自分より先輩、後輩から成功している事を学べる、又人格を磨くには皆様を観察し職業に役に立っています。
- ☆ 昨年 SAA になり、人前で話せるようになり、自分を知ってもらい、色々な人と話し合えるようになりました。
- ☆ 入会の頃は例会に出席するのがいやでしたが SAA になり、卓話者や会員と接触で物の見方色々
→自分が大人になっている。全体から学べる。自分を磨くという気持ちがあれば、他人から吸収する、各人、各クラブのレベルによる。数字に出るものではない。

- ☆ 会員の姿勢による、受け身だと何年いても進歩が少ない、自分から積極的に学ぶ姿勢が大事。

<役に立たないと答えた人の意見・現状認識>

- ☆ 不良会員でしたが SAA になったが例会がマニュアル化している。
- ☆ 入会はバブル時でしたが、現在は例会がマンネリ化。
- ☆ 現在 SAA ですが人格向上、職業には役に立っていない。
- ☆ 現在は感じられない。
- ☆ 昨年 11 月入会今のところ。

<その他の意見>

<例会運営について> 私たちは何故週一回ロータリーに集うのか

- ☆ 例会がつまらない、卓話の時間が 15 分位で短い、会員に卓話してもらったほうが良い。(旭)
- ☆ 出席は当たり前、自分の為になっている、ふるって参加自分から。
- ☆ 一年に一度は必ず全会員が話をするようにする。
- ☆ 自己研鑽には例会で多くの会員が卓話をしたら良い。
- ☆ 毎週同じサイクルにしたほうが良い、第二火曜日夜間例会が月に一回あるが(八日市場)
- ☆ 夜間例会(旭、八日市場)は若い会員が出席しやすい。年配の方の出席がし難くなる。
- ☆ 週に一度、服装変え出席しています。良かったと思う卓話が無かった。ベテランの方にもっと活動してもらいたい。考え方を改めて、例会では食事がいただける。(銚子)
- ☆ コミュニケーションを例会後(銚子東)
- ☆ コミュニケーションを例会前後各 30 分間(銚子)
- ☆ 12 時前に来て話し合う、例会前に。
- ☆ 月に一度夜間例会 話し合い(八日市場)
- ☆ 例会一時間だけと考えないで前後の時間を利用するように
- ☆ 時間は一時間しかない、平等になるから
- ☆ 考え方が受け身ではコミュニケーションがなければ進歩なし。
- ☆ 6 年目入会時には活気があったが現在は感じられない。

☆ 40 数回の例会に自分がどのように考え行動するか。

A グループによる発表内容

職業奉仕の視点で毎週の例会を見たときに、週一度の例会で集うことが、職業奉仕に役立っていますか。との議題には全員に答えていただき、当初は 13 名中 5 名の方が役に立っていますとの答えでしたが、皆様で話しているうちに、例会に参加しているだけで自分を成長させる事ができる、会員が受身でなく自分から積極的な姿勢であれば、職業奉仕にも大いにプラスになるとの考え方に、殆んどの方がなりました。

例会運営について、私たちは何故週一回ロータリーに集うのか。この議題には時間の関係で 8 名の方の意見発表で終わりました。週に一回ロータリーの例会に出るリズムを自分で作る、会員同士のコミュニケーションと自己研鑽に全会員が卓話を一年に一度したほうがよい、年間 40 数回の例会も会員が自ら親睦を図り、お互いに話せる間柄になり、互いに研磨しあい人格の向上に努める事ができるような運営を、等の意見でした。

Bグループ

リーダー 黒田 幸一（銚子東）

石上 明宏（銚子東） 高橋 宏資（銚子） 仲田 博史（銚子）

上総 泰茂（銚子） 植田 正義（銚子） 宮内 柄一（八日市場）

小川不二夫（八日市場） 宮野 作一（旭） 加瀬 忠男（旭）

飯塚六兵衛（旭） 座古 裕久（旭）

① の質問に対し、役に立っている 10名 ・ 役に立っていない 0名

<役に立っていると答えた人の意見・現状認識>

職業奉仕という概念は、ロータリー・クラブ独自でそれが最大の特徴でもあります。あらゆる職業において高い道徳的水準を守り、絶えず尊い職業倫理を保つ事はロータリアンの責務であります。

この観点から例会を見た時、週1回の例会では特に意識していませんが、長い間例会に出席し、更にロータリー活動をしていけば間接的に職業奉仕に繋がるものがあると思います。

○毎週の例会は、役に立つ、立たないは気持ちの持ち様だと思います。

○異業種の方と話ができるのが良いです。

○例会は自己管理の場。

○例会もそうだが色々な活動を通し自己研鑽出来ます。

② 例会運営について

例会が月1度だったら、会員同士の情報交換になってしまうと思います。

親睦という観点からも週に1度の例会が丁度良いのではないのでしょうか。

メイクアップができれば色々なクラブの特徴もわかり、楽しく勉強にもなると思います。

○皆でプログラム等例会を作る事が大事。

○組織を学び、責任を持てる様になります。

Cグループ

リーダー 大塚 栄一 (八日市場)

鵜澤 仁智 (八日市場) 宮内 龍雄 (銚子) 高木 浩一 (銚子)

内田 修心 (銚子) 杉浦 武 (銚子東) 狩野 勉 (銚子東)

中西 廣 (銚子東) 飯島 盛行 (旭) 椎名 正良 (旭)

太田 賢一 (旭) 井田 孝 (旭)

① の質問に対し、役立っている 12名 ・ 役に立っていない 0名

<役に立っていると答えた人の意見・現状認識>

○例会について

- ・心の癒し場所 出会い→友人でき→楽しくなる
- ・異業種交流で別職業の方々の話が聞け→自身と照らして
- ・ロータリーという名のところに親しみを覚える。世界中のロータリアンとも出会う。
- ・年齢構成が広く、いろいろ良い話を聞け、自身の励みにも。例会は素晴らしい。

○その他

- ・入会3年ロータリアン

会計始め、役づとめをしてきているが、ロータリーの入会前と入会后では認識がずいぶん違った。学べる。

- ・入会2年ロータリアン

ロータリーのバッジの重さを感じるので、人に見られるように様になったらバッジを堂々と着けたい。

- ・入会6年目に入るロータリアン

現実の仕事は、個人が企業を引っ張っていく。

ロータリーの例会では、身だしなみをキチンとし、現実から別の世界へいざなう。

これは心を落ち着かせてくれ、勉強にもなるし、ありがたい。

- ・入会15年ロータリアン (2ヶ所クラブ通算)

岡山でもロータリアンだった。職業柄なかなか異業種の方々との出会いが少ないが、ロータリーではそれが可能に。ありがたい。

また、各界のリーダーの話を聞き、教育現場にも活かせる。

ロータリーに入会～同志意識を持つことで、人との交流がやりやすい。

4つのテストを注視する。職業倫理に照らす。

- 入会 15 年ロータリアン
例会へ週 1 度は多い？ 例会へ 90%の出席。例会出席苦ではない。
出合いあり、親睦あり、楽しい。若い人は先輩の声を聞けば啓蒙される。
- 入会 17 年ロータリアン
夜間例会を初めてやると、月各々出席 1/2 に。昼と比較 週 1 多い？
異業種交流はためになる。
- 入会 15 年ロータリアン
J C の先輩からのお誘いがあり、入会。例会、会員卓話の楽しみ。
普段会えない会員の卓話に感銘を持つ。
- 入会 18 年ロータリアン
会の将来に不安持つ→拡大の意義感じる。
従来の会員組織表→今後検討が必要。（変えていく必要あり。）
- おわりに
新入会員の退会→3 年目に？（ここまでのフォローが大切）
また、どんどん役与え楽しさを覚えてもらおう。育てるということ。

Dグループ

リーダー 岡田 英一（旭）

新行内誠玄（旭） 神崎 薫（旭） 伊藤 禧雄（旭）

信太 秀紀（銚子） 藤崎 真気（銚子） 石毛 充（銚子）

長谷川 弘（銚子東） 木村 貞夫（銚子東） 澤田 武男（銚子東）

鵜之沢康雄（八日市場） 江波戸達郎（八日市場）

① の設問に対し、役に立っている8名 ・ 役に立っていない2名

<役に立っていると答えた人の意見・現状認識>

- ・大きな目で見れば役に立っている。特に親睦の面で。
- ・例会に出席することで親睦、異業種の人のお話を聞くことで、勉強になり又新鮮に聞こえる。ただ、例会の出席率が低い時は楽しくない。
- ・例会に出席しているときは自分は職場にいない。その時に職員がいろいろ現場を仕切ってくれるので、人材育成に役立っている。
- ・年齢を重ねるごとに例会出席の大切さが分かってきた。いろいろな意味で出席者から元気を貰えるのを感じられるようになってきた。
- ・例会に出席するようになり、自分の健康面が良くなった。また、商売の方でもみんなが利用してくれるようになった。
- ・自分のクラブは卓話が充実しているので、行政の話、異業種の話を知ると勉強になり、本で知識を得るよりも良い時がある。
- ・ロータリアンの方々の例会における姿勢を拝見し、大変勉強になる。自己研鑽をするために出席している。

<役に立っていないと答えた人の意見・現状認識>

- ・社会奉仕は理解をしているつもりだが、自分は経営者でないので職業奉仕というのがなんであるかはっきり分からない。また、例会出席が義務なのに出席免除という制度に疑問を感じることもある。
- ・ロータリーは大変好きである。ただ、上から目線で、職業奉仕と例会を結び付けての設問に抵抗感を感じた。役立つか役立たないかは、自分がいかにそこにとけ込むかだけである。職業奉仕に結び付けるのには反対である。

②の設問に対して

- ・ 会則だから、また夜間例会を楽しみにしている。
- ・ 知り合いを作るため
- ・ 例会に出席をして話をすれば、見識につながる。
- ・ 週に1回で毎週出席をしていると、家族的になれる。人間関係を構築するのに最高の場である。
- ・ 出席が第一、出席免除は必要ない。
- ・ 出席している元気な会員を見て、自分もそうなれるように頑張りたいし、会うのも楽しみ。
- ・ 週に1回が生活のリズムには丁度良い。
- ・ 週に1回会って、それをずっと繰り返せことにより、今まで知人であった人がだんだん友人になり、そして友人が増え結果としてロータリー精神が培われていくと思う。